



“地域のことは地域で考えよう”

2014年12月26日

おきぎん県内景況・速報 2014年11月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。

百貨店売上高も前年同月を上回る。

家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2014年11月分)

◎2014年11月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

11月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回りました。百貨店売上高は雑貨や身の回り品などが好調で、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、太陽光パネルの売上減少などにより前年同月を下回りました。新車販売台数は軽乗用車需要などにより前年同月を上回りました。

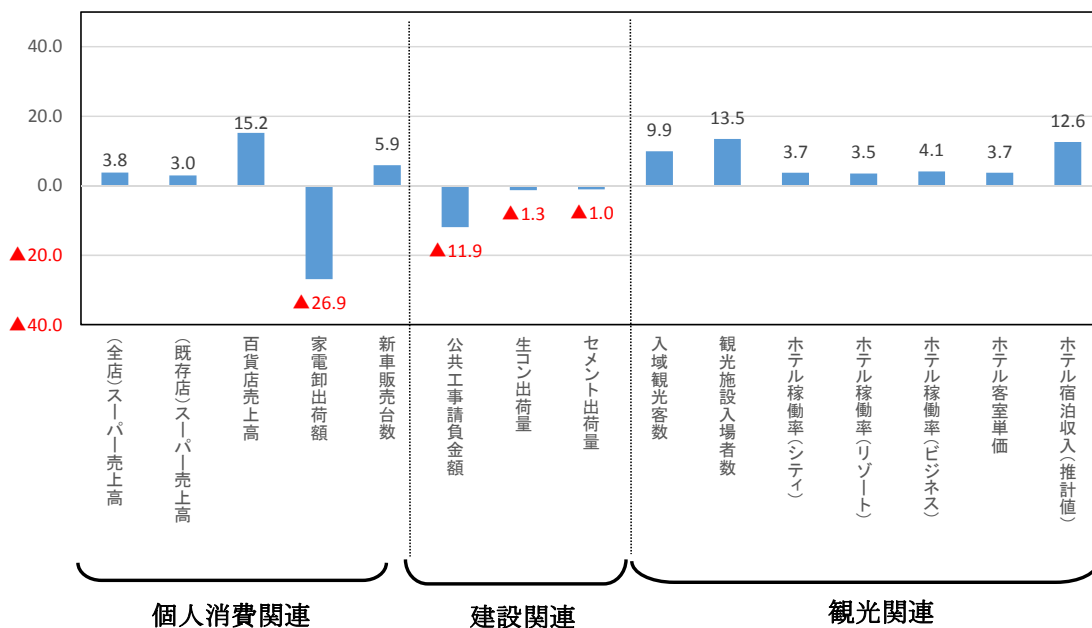
建設関連では、公共工事請負金額は、沖縄県や市町村発注工事減などにより前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントもともに下回りました。

観光関連では、入域観光客数は26ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費において消費税増税に伴う駆け込み需要の反動等による影響が和らいでおり、また、建設関連や観光関連では堅調な動きが続いていることから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。(2014年2月の上方修正後から10ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)

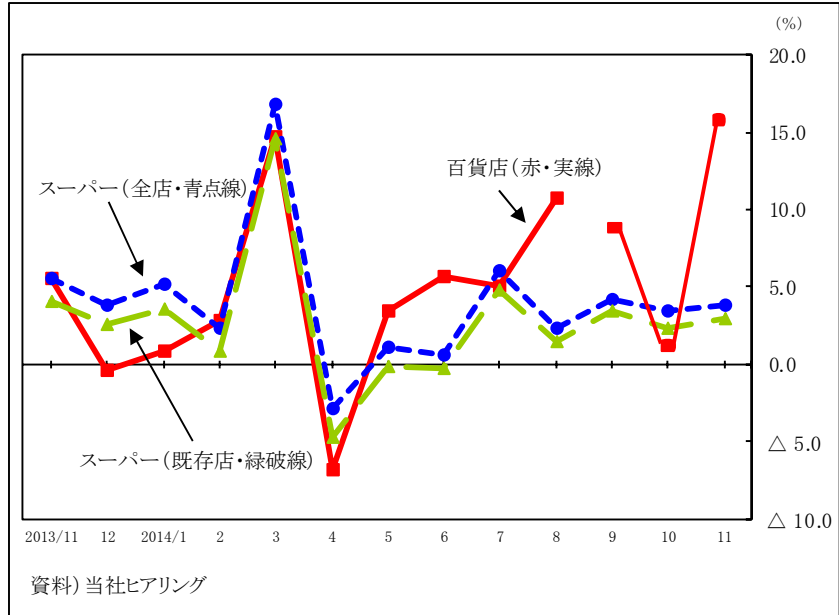




■個人消費： (やや良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2013/11	5.6	4.1	5.5
12	3.8	2.6	△ 0.4
2014/1	5.2	3.6	0.9
2	2.4	0.8	2.8
3	16.8	14.6	14.7
4	△ 2.8	△ 4.7	△ 6.8
5	1.1	△ 0.1	3.5
6	0.6	△ 0.2	5.7
7	6.1	4.8	5.0
8	2.3	1.5	10.8
9	4.2	3.4	8.8
10	3.4	2.4	1.7
11	3.8	3.0	15.2



注1) 前年同月比

注2) 百貨店売上額については、9月よりサンプル数の変更に伴い、8月までの数値と連続しないため、使用する際は注意する必要があります。

11月の個人消費関連では、**スーパー売上高**は「全店ベース(前年同月比 3.8%増)」が7ヵ月連続で前年同月を上回りました。昨年に比べて日曜日・祝日が各1日増えたほか、ウェイトの高い「食料品(同 4.5%増)」の売れ行きが堅調で前年同月を上回りました。

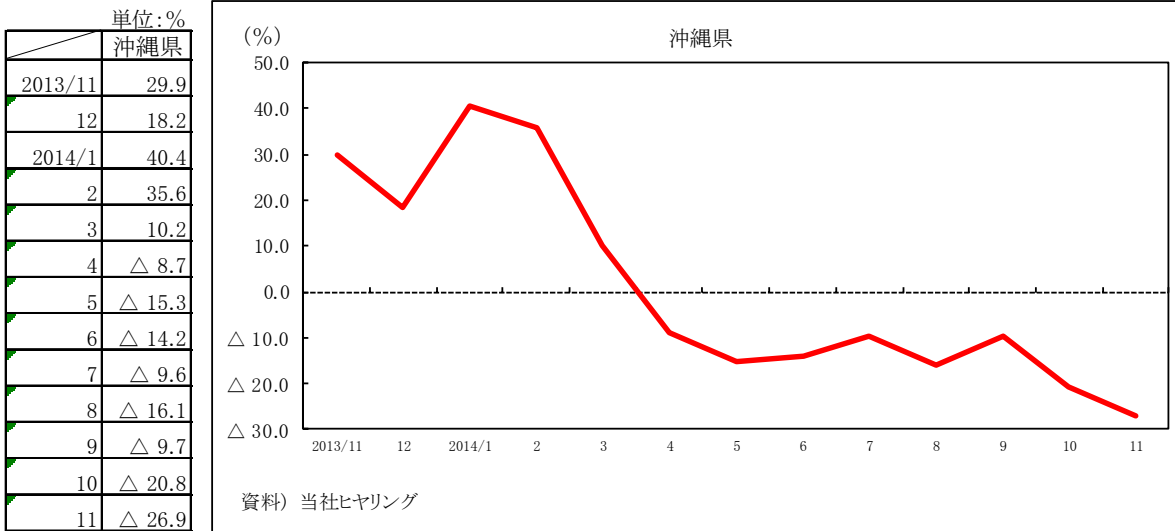
「既存店ベース(同 3.0%増)」では5ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別でみると、ウェイトの高い「食料品(同 3.6%増)」は、青果(野菜)の相場に落ち着きが見られたほか、生鮮(精肉・水産)などの売れ行きが堅調で前年同月を上回りました。家電を含む「家庭用品(同 2.7%増)」は下旬の気温高などから家庭雑貨(寝具関連)の売れ行きが低調だったものの、訪日観光客による化粧品や一部家電の売れ行きが堅調で前年同月を上回りました。一方、「衣料品(同 1.6%減)」は、下旬の気温高などの影響から全般的に売れ行きが低調で、前年同月を下回りました。

百貨店売上高*は、昨年に比べて日曜日・祝日が各1日増えたほか、「雑貨」や「身の回り品」の売れ行きが好調で前年同月を上回りました(同 15.2%増)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 4.0%増)」は、会員限定セール開催により売れ行きが好調で、「婦人服(同 4.7%増)」が前年同月を上回りました。

また「雑貨(同 25.4%増)」や「身の回り品(同 28.1%増)」は、新規催事の開催による集客効果のほか、訪日観光客による化粧品などの売れ行きが堅調で前年同月を上回りました。「食料品(同 15.9%増)」も催事の開催や生鮮(精肉・水産・青果)の売れ行きが堅調だったことなどから、前年同月を上回りました。

*百貨店売上高については、9月分より調査手法変更(サンプル数が異なる)に伴い、8月分までの時系列データと連続していません。ご利用の際は、その点、ご留意頂けますようお願い申し上げます。

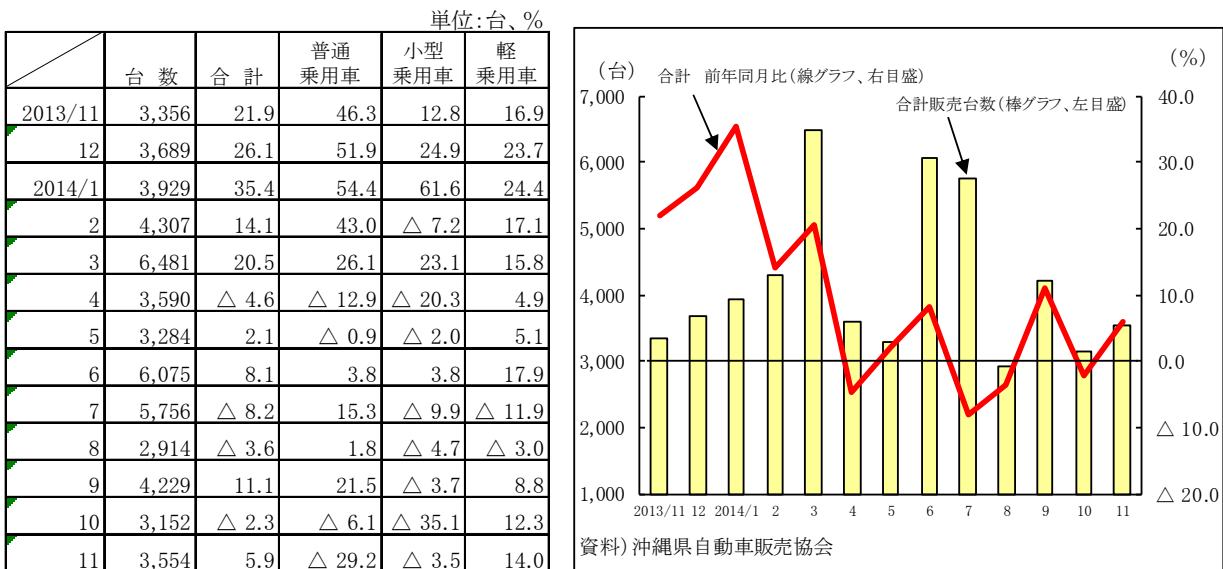
②家電卸出荷額…太陽光パネルの売上減少などにより前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、旧型モデルの販促効果や新型モデル効果がみられたものの、継続的な太陽光パネルの売上減少により、8ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 26.9%減)。品目別で見ると、「太陽光パネル(同 80.1%減)」は新規接続中止の影響から売上減少が続いています。「エアコン(同 29.1%減)」は下旬の気温高などにより売れ行きが低調だったほか、「テレビ(同 14.9%減)」や「冷蔵庫(同 4.0%減)」は新型モデルの売れ行きが堅調だった前年の反動などで前年同月を下回りました。一方、「洗濯機(同 13.2%増)」は新型モデルの売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。

③新車販売台数…軽乗用車需要などから、前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,554台(同 5.9%増)となり、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。車種別にみると、レンタカー需要の増加が一部みられたものの、「普通乗用車(同 29.2%減)」が2ヵ月連続、「小型乗用車(同 3.5%減)」が5ヵ月連続で前年同月を下回りました。一方、「軽乗用車(同 14.0%増)」は新商品の需要が堅調に推移し、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

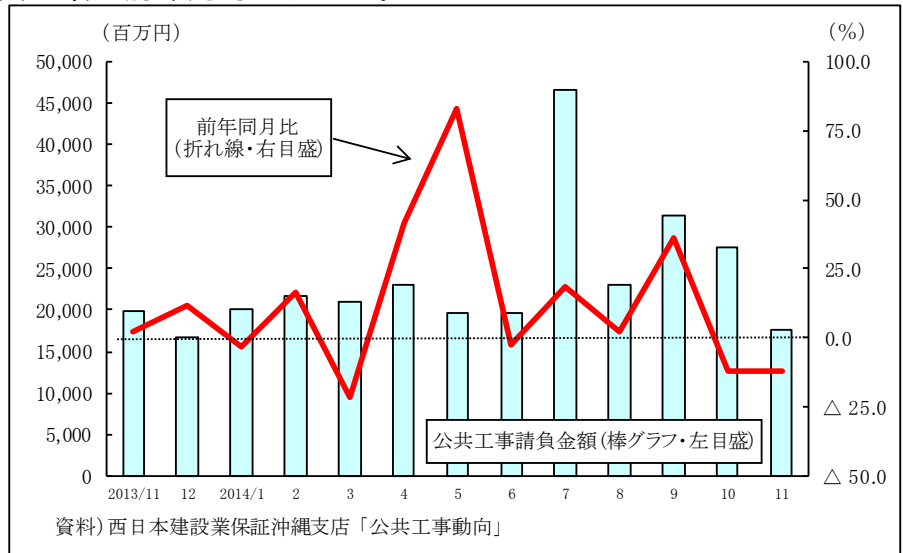


■ 建設関連: (やや良い)

①公共工事…公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2013/11	19,880	2.5
12	16,792	12.0
2014/1	20,056	△3.4
2	21,681	16.6
3	21,096	△21.6
4	22,973	41.3
5	19,683	83.2
6	19,751	△2.8
7	46,674	18.5
8	23,163	2.4
9	31,485	35.8
10	27,642	△11.8
11	17,512	△11.9

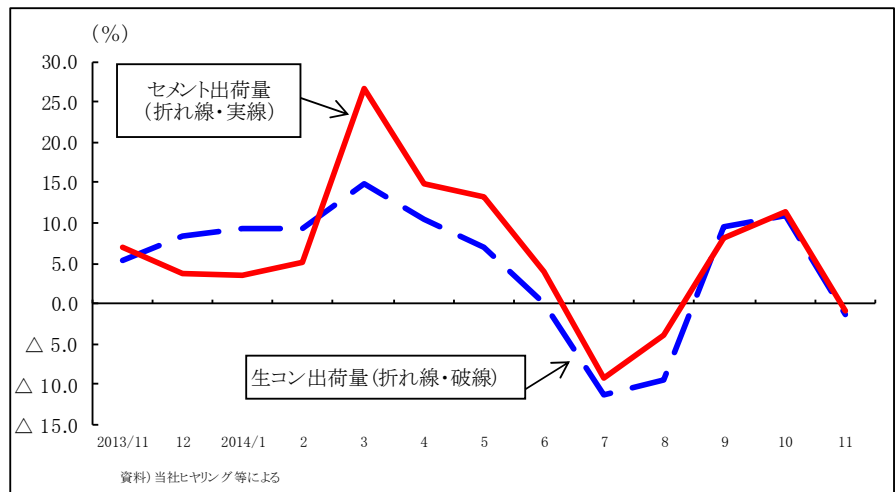


11月の公共工事請負金額は、前年同月比11.9%減の175億1,200万円となりました(2ヵ月連続減)。発注者別でみると、「国(同71.0%増)」は北部でのトンネル工事、「その他の公共的な団体(同21.8%増)」は中部での土地区画整理関連の道路工事などで前年同月を上回りました。一方、「沖縄県(同36.2%減)」は前年あった伊良部大橋橋梁整備工事、「市町村(同14.8%減)」はうるま市庁舎建設工事などの大型工事の反動、「独立行政法人等(同81.8%減)」も下回りました。

②建設資材…生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

単位:前年同月比(%)

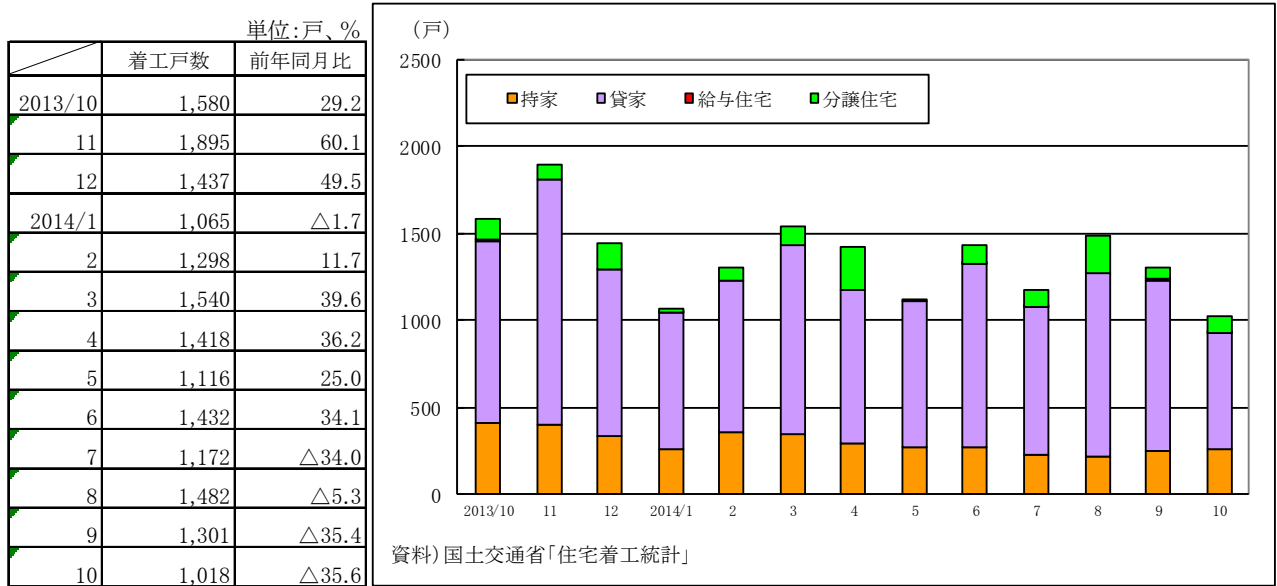
	生コン	セメント
2013/11	r 5.3	6.9
12	r 8.4	3.8
2014/1	r 9.3	3.4
2	r 9.2	5.2
3	r 15.0	26.8
4	r 10.3	14.9
5	r 7.0	13.2
6	r △0.1	3.9
7	r △11.2	△9.3
8	r △9.4	△3.9
9	r 9.6	8.2
10	10.8	11.4
11	△1.3	△1.0



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある
(注2) 生コンデータは、9月より調査対象先を増やした為、遡及し修正している

建設資材関連では、**生コン**の出荷量は1.3%減少し、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より4.8%上回ったものの、民間工事向け出荷は4.2%下回りました。**セメント**の出荷量は1.0%減と3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

【参考】 住宅投資 (10月分) …着工戸数は前年同月を下回る。



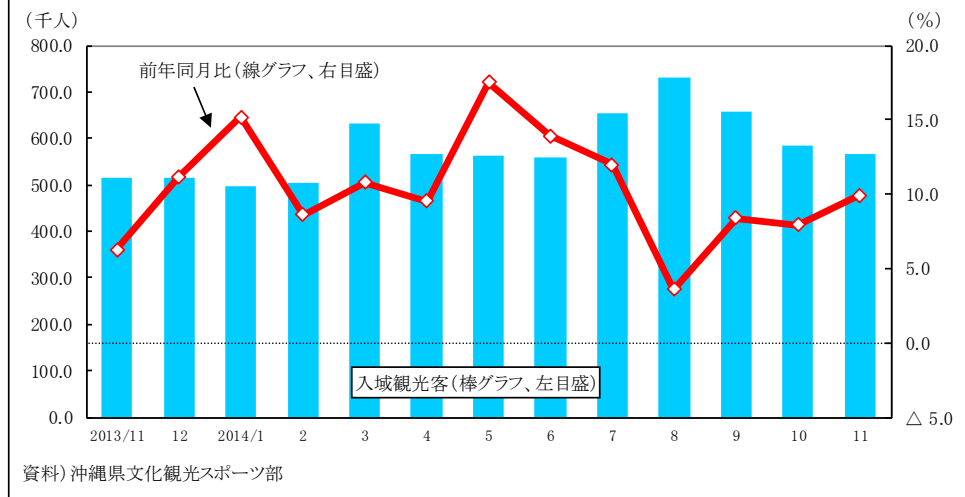
新設住宅着工戸数 (10月) は、全体で前年同月比 35.6%減の 1,018 戸と 4 ヶ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家 (同 35.7%減)」をはじめ、それ以外の項目でも前年同月を下回りました。



■観光関連： (良い)

①入域観光客数…26ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2013/11	513.6	6.3
12	515.5	11.2
2014/1	495.1	15.2
2	503.1	8.6
3	630.2	10.8
4	565.6	9.5
5	561.4	17.5
6	557.3	13.9
7	653.9	12.0
8	731.2	3.6
9	658.7	8.4
10	586.0	7.9
11	564.5	9.9



※外国客は乗務員等を含む

11月の入域観光客数は、50,900人多い564,500人(前年同月比9.9%増)となり、26ヵ月連続で前年同月を上回りました。(11月としては過去最高)

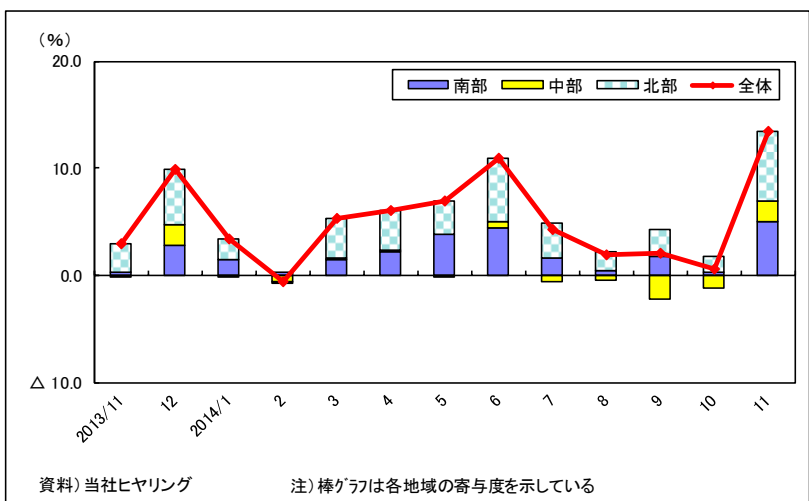
内訳をみると、「国内客(同5.8%増)」は508,100人と、クルーズ船の寄港や航空路線の拡充(LCC就航、伊丹ー那覇路線)効果に加え、団体旅行の需要(修学旅行、MICE等)も好調に推移したことなどから13ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同68.4%増)」は、56,400人と16ヵ月連続で前年同月を上回りました。航空路線の拡充等により、各方面からの入域が好調に推移したほか、欧米系クルーズ船の寄港効果も加わり、前年同月を上回りました。「台湾(同79.2%増)」「韓国(同122.1%増)」「中国本土(同43.1%増)」「香港(同30.0%増)」 ※乗務員等を除く2014年11月実績=全体563,000人(同10.0%増)、外国客54,900人(同73.7%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数…9ヵ月連続で前年同月を上回る。

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2013/11	2.9	0.6	r △0.1	r 6.2
12	9.9	6.5	14.4	11.6
2014/1	3.4	4.0	△0.1	4.0
2	△0.6	0.6	△4.0	△0.5
3	5.3	3.7	1.2	8.0
4	6.0	5.5	1.7	7.8
5	7.0	9.6	△0.01	6.7
6	10.9	11.1	5.6	12.0
7	4.3	4.9	△4.6	6.0
8	1.8	1.3	△3.0	3.4
9	2.0	5.1	△16.6	4.8
10	r 0.6	0.7	△8.5	r 3.1
11	13.5	11.7	14.5	14.9

*調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設

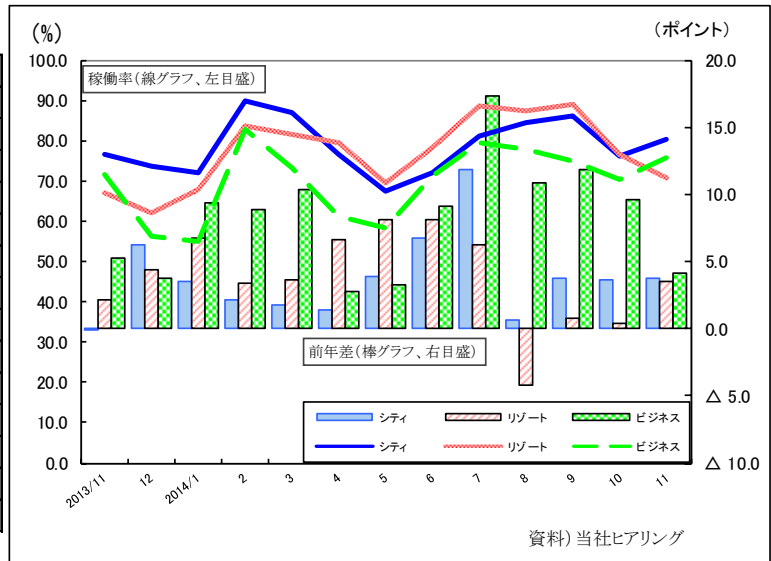


観光施設入場者数は、全体で前年同月より13.5%増加(9ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同11.7%増と13ヵ月連続、中部は同14.5%増と5ヵ月ぶり、北部は同14.9%増と9ヵ月連続で前年同月を上回りました。

③ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2013/11	76.6	r 67.1	71.6	△ 0.1	r 2.1	5.2
12	73.7	62.0	56.4	6.3	4.4	3.7
2014/1	72.0	68.0	55.1	3.5	6.8	9.3
2	90.0	83.5	82.9	2.1	3.4	8.9
3	86.8	81.7	73.3	1.8	3.6	10.3
4	76.5	79.5	61.2	1.4	6.6	2.7
5	67.4	69.4	58.5	3.9	8.1	3.3
6	72.1	78.3	71.0	6.7	8.1	9.1
7	81.2	88.4	79.3	11.8	6.3	17.3
8	84.4	87.5	77.6	0.6	△ 4.2	10.9
9	86.0	88.8	75.1	3.7	0.8	11.8
10	r 76.3	76.6	70.2	r 3.6	0.4	9.6
11	80.3	70.6	75.7	3.7	3.5	4.1



注)シティ10ホテル、リゾート19ホテル、ビジネス7ホテル

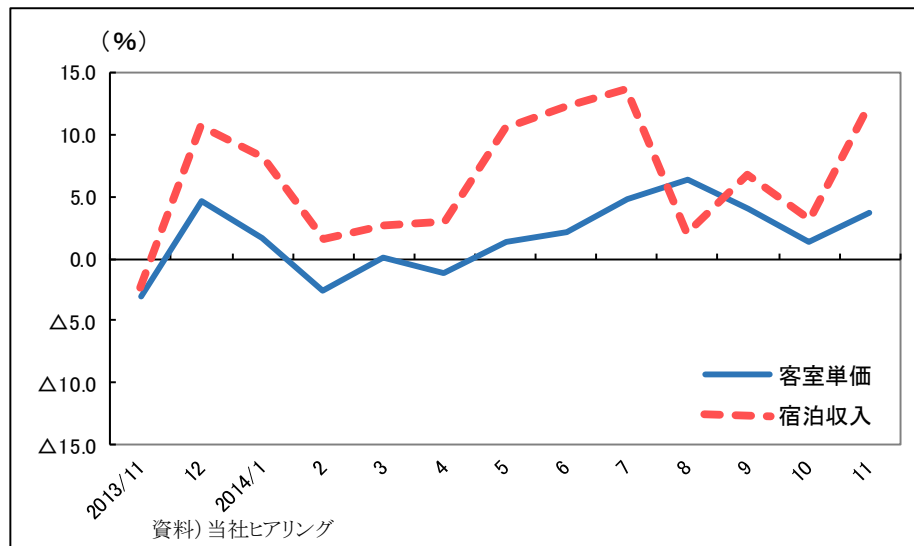
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが80.3%と3.7ポイント上昇(12ヵ月連続)、リゾートホテルが70.6%と3.5ポイント上昇(3ヵ月連続)、ビジネスホテルが75.7%と4.1ポイント上昇(13ヵ月連続)しました。

④ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。

単位: %

	客室単価	宿泊収入
2013/11	r △3.1	r △2.4
12	4.6	10.6
2014/1	1.6	8.1
2	△2.6	1.5
3	0.1	2.7
4	△1.2	3.0
5	1.3	10.5
6	2.1	12.2
7	4.8	13.6
8	6.3	2.1
9	4.0	6.8
10	r 1.4	r 3.2
11	3.7	12.6



※対象施設数:29施設(シティ10、リゾート19)、ビジネスは除く

※客室単価は29施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする

※2014年4月指標より新たに掲載

ホテル客室単価(シティ&リゾート)が前年同月比 3.7%増と前年同月を上回ったほか、宿泊収入も同12.6%増と前年同月を上回りました。

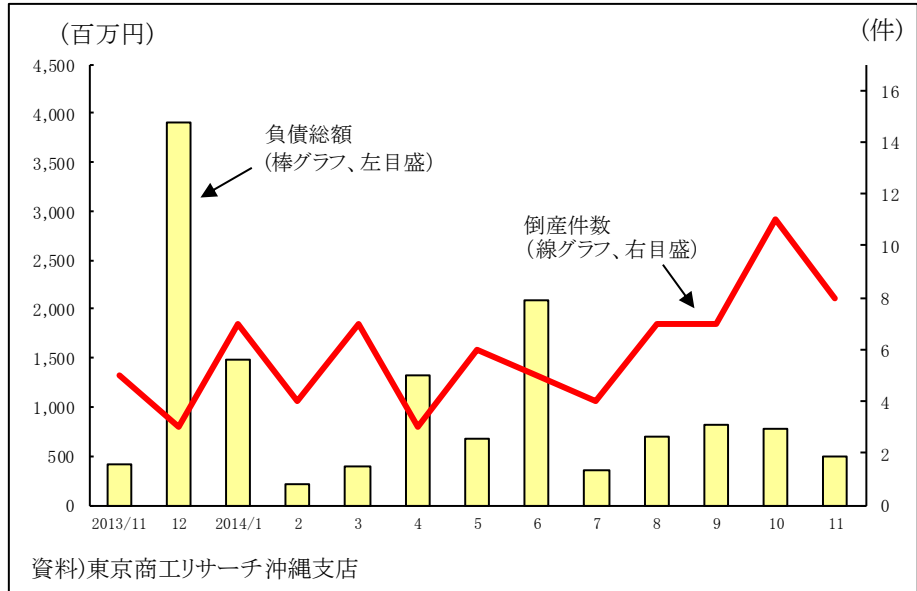


■企業倒産: (ふつう)

企業倒産…件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2013/11	419	5
12	3,910	3
2014/1	1,492	7
2	214	4
3	386	7
4	1,314	3
5	683	6
6	2,090	5
7	361	4
8	697	7
9	808	7
10	774	11
11	487	8



11月の企業倒産件数は、8件(うち、1億円以上の大口倒産2件)発生し前年同月より60.0%増加し、負債総額も4億8,700万円と16.2%増加しました。

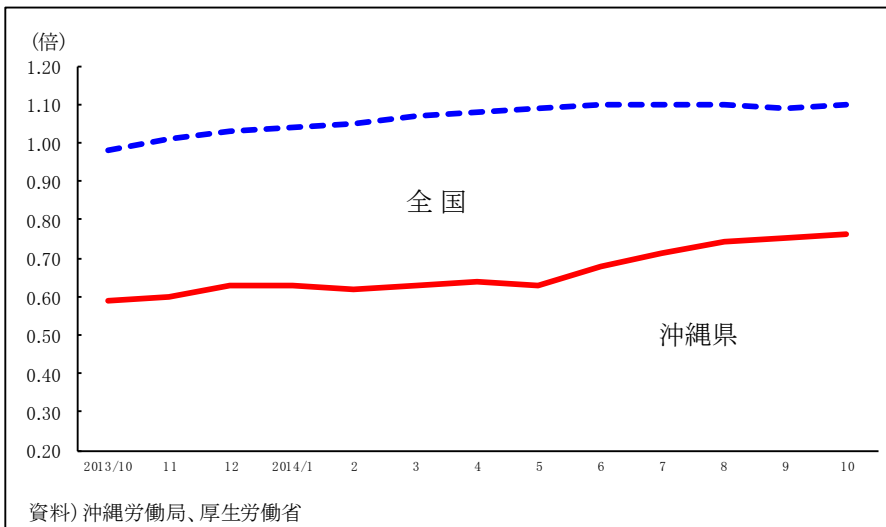


【参考】雇用関連: (やや良い)

(参考)有効求人倍率(10月)…前月より上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2013/10	0.59	0.98
11	0.60	1.01
12	0.63	1.03
2014/1	0.63	1.04
2	0.62	1.05
3	0.63	1.07
4	0.64	1.08
5	0.63	1.09
6	0.68	1.10
7	0.71	1.10
8	0.74	1.10
9	0.75	1.09
10	0.76	1.10



注) 季節調整済
注) 季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

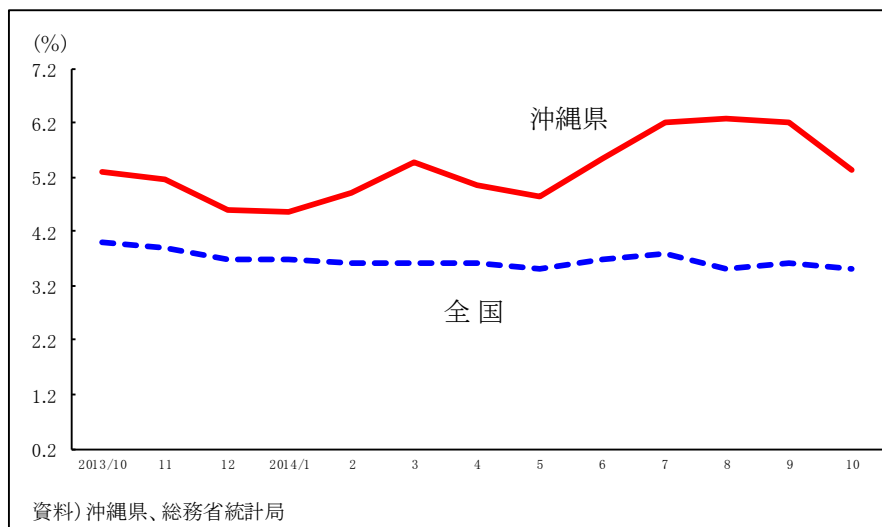
10月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比2.4%増の22,353人に対して、月間有効求職者数(同上)は同0.4%増の29,290人となり、有効求人倍率(季節調整値)は0.76倍となり前月より0.01ポイント上昇しました。

(参考) 完全失業率…前月より下落。

単位:倍

	沖縄県	全国
2013/10	5.3	4.0
11	5.2	3.9
12	4.6	3.7
2014/1	4.6	3.7
2	4.9	3.6
3	5.5	3.6
4	5.1	3.6
5	4.8	3.5
6	5.5	3.7
7	6.2	3.8
8	6.3	3.5
9	6.2	3.6
10	5.3	3.5

注) 季節調整済



10月の完全失業率(季節調整値)は、5.3%となり前月より0.9ポイント下落しました。